

BIM/CIM取扱要領 新旧対照表 (1/3)

項目 (番号は改定前)	BIM/CIM取扱要領 R7.3		BIM/CIM取扱要領 R8.3(案)		理由
	頁	内容	頁	内容	
目次	目次		目次	【附属資料2】設計段階における3次元モデルと2次元図面の整合確認方法 (案)	新規追加
	目次	【附属資料2】オブジェクト分類	目次	【附属資料3】オブジェクト分類	資料番号変更
	目次	【附属資料3】積算での活用を目的とした3次元モデルの作成方法	目次	【附属資料4】積算での活用を目的とした3次元モデルの作成方法	資料番号変更
1-3 各種基準等の扱いについて	4	i-Construction推進のための3次元数値地形図データ作成マニュアル (令和5年3月)	4	i-Construction推進のための3次元数値地形図データ作成マニュアル (令和7年4月)	発行年月改定
	4	土木工事数量算出要領 (案) (令和6年4月)	4	土木工事数量算出要領 (令和7年4月)	名称、発行年月改定
	4	オンライン電子納品実施要領【業務編】 (令和5年2月)	4	オンライン電子納品実施要領【業務編】 (令和7年3月)	発行年月改定
	4	オンライン電子納品実施要領【工事編】 (令和5年2月)	4	オンライン電子納品実施要領【工事編】 (令和7年3月)	発行年月改定
	4	LandXML1.2に準じた3次元設計データ交換標準 (案) Ver.1.6 (略称: J-LandXML) (令和6年4月)	4	LandXML1.2に準じた3次元設計データ交換標準 (案) Ver.1.7 (略称: J-LandXML) (令和7年5月)	名称、発行年月改定
	4	BIM/CIM事例集	4	BIM/CIM事例集※2	脚注を新規追加
	4		4	※2 BIM/CIM ポータルサイト→活用事例→事例集 https://www.nilim.go.jp/lab/qbg/bim/cim/case_national.html	脚注を新規追加
1-6 3次元モデルの座標及び単位・基準点	8 脚注	現在の日本の国家基準点成果は、世界測地系（地球基準座標系）のひとつである測地基準座標系「日本測地系2011」（JGD2011）に準拠している。令和7年4月1日に日本測地系2024（JGD2024）に変更する予定。また、座標補正ソフトウェアPatchJGD（標高版）が国土地理院にて公表される予定。	8 脚注	現在の日本の国家基準点成果は、世界測地系（地球基準座標系）のひとつである測地基準座標系「日本測地系2024」（JGD2024）に準拠している（令和7年4月1日）。また、座標補正ソフトウェアPatchJGD（標高版）が国土地理院にて公表。	座標参照系改定に伴う文言改定
	9	例えば、日本測地系 2011, 東京湾平均海面/平面直角座標系第IX系, 標高の場合は、「JGD 2011, TP/9(X, Y), H」と記載する。	9	例えば、日本測地系 2024, 東京湾平均海面/平面直角座標系第IX系, 標高の場合は、「JGD2024, TP/9(X, Y), H」と記載する。	座標参照系改定に伴う文言改定

項目 (番号は改定前)	BIM/CIM取扱要領 R7.3		BIM/CIM取扱要領 R8.3		理由																																																																																								
	頁	内容	頁	内容																																																																																									
1-6 3次元モデルの座標及び単位・基準点	9	<p>表 - 3 座標参照系情報の略称</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>記述項目</th> <th>参照系情報の内容 (例)</th> <th>略称</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">測地系 (水平位置の基準面)</td> <td>日本測地系2011</td> <td>JGD2011</td> </tr> <tr> <td>(参考) 日本測地系2000</td> <td>JGD2000</td> </tr> <tr> <td>(参考) 日本測地系 (Tokyo Datum)</td> <td>TD</td> </tr> <tr> <td>(参考) World Geodetic System 1984 (GPSの測地系)</td> <td>WGS84</td> </tr> <tr> <td rowspan="8">鉛直基準面</td> <td>東京湾平均海面</td> <td>TP</td> </tr> <tr> <td>(参考) 北上川</td> <td>KP</td> </tr> <tr> <td>(参考) 利根川</td> <td>YP</td> </tr> <tr> <td>(参考) 荒川・中川・多摩川</td> <td>AP-ANT</td> </tr> <tr> <td>(参考) 淀川</td> <td>OP</td> </tr> <tr> <td>(参考) 吉野川</td> <td>AP-Y</td> </tr> <tr> <td>(参考) 琵琶湖</td> <td>BSL</td> </tr> <tr> <td>水平位置の座標系</td> <td>平面直角座標系第I系 (長崎県、鹿児島県(一部))</td> <td>1(X, Y)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>平面直角座標系第XⅢ系 (北海道(東部))</td> <td>13(X, Y)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>(参考) 緯度・経度</td> <td>(B, L)</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">鉛直座標系</td> <td>標高 (基準平均海面からの高さ)</td> <td>H</td> </tr> <tr> <td>(参考) 楕円体高</td> <td>h</td> </tr> </tbody> </table>	記述項目	参照系情報の内容 (例)	略称	測地系 (水平位置の基準面)	日本測地系2011	JGD2011	(参考) 日本測地系2000	JGD2000	(参考) 日本測地系 (Tokyo Datum)	TD	(参考) World Geodetic System 1984 (GPSの測地系)	WGS84	鉛直基準面	東京湾平均海面	TP	(参考) 北上川	KP	(参考) 利根川	YP	(参考) 荒川・中川・多摩川	AP-ANT	(参考) 淀川	OP	(参考) 吉野川	AP-Y	(参考) 琵琶湖	BSL	水平位置の座標系	平面直角座標系第I系 (長崎県、鹿児島県(一部))	1(X, Y)		平面直角座標系第XⅢ系 (北海道(東部))	13(X, Y)		(参考) 緯度・経度	(B, L)	鉛直座標系	標高 (基準平均海面からの高さ)	H	(参考) 楕円体高	h	9	<p>表 - 3 座標参照系情報の略称</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>記述項目</th> <th>参照系情報の内容 (例)</th> <th>略称</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="6">測地系 (水平位置の基準面)</td> <td>日本測地系2024</td> <td>JGD2024</td> </tr> <tr> <td>(参考) 日本測地系2011</td> <td>JGD2011</td> </tr> <tr> <td>(参考) 日本測地系2000</td> <td>JGD2000</td> </tr> <tr> <td>(参考) 日本測地系 (Tokyo Datum)</td> <td>TD</td> </tr> <tr> <td>(参考) World Geodetic System 1984 (GPSの測地系)</td> <td>WGS84</td> </tr> <tr> <td>鉛直基準面</td> <td>東京湾平均海面</td> <td>TP</td> </tr> <tr> <td></td> <td>(参考) 北上川</td> <td>KP</td> </tr> <tr> <td></td> <td>(参考) 利根川</td> <td>YP</td> </tr> <tr> <td></td> <td>(参考) 荒川・中川・多摩川</td> <td>AP-ANT</td> </tr> <tr> <td></td> <td>(参考) 淀川</td> <td>OP</td> </tr> <tr> <td></td> <td>(参考) 吉野川</td> <td>AP-Y</td> </tr> <tr> <td></td> <td>(参考) 琵琶湖</td> <td>BSL</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">水平位置の座標系</td> <td>平面直角座標系第I系 (長崎県、鹿児島県(一部))</td> <td>1(X, Y)</td> </tr> <tr> <td>平面直角座標系第XⅢ系 (北海道(東部))</td> <td>13(X, Y)</td> </tr> <tr> <td>(参考) 緯度・経度</td> <td>(B, L)</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">鉛直座標系</td> <td>標高 (東京湾平均海面 (ジオイド) からの高さ)</td> <td>H</td> </tr> <tr> <td>(参考) 楕円体高</td> <td>h</td> </tr> </tbody> </table>	記述項目	参照系情報の内容 (例)	略称	測地系 (水平位置の基準面)	日本測地系2024	JGD2024	(参考) 日本測地系2011	JGD2011	(参考) 日本測地系2000	JGD2000	(参考) 日本測地系 (Tokyo Datum)	TD	(参考) World Geodetic System 1984 (GPSの測地系)	WGS84	鉛直基準面	東京湾平均海面	TP		(参考) 北上川	KP		(参考) 利根川	YP		(参考) 荒川・中川・多摩川	AP-ANT		(参考) 淀川	OP		(参考) 吉野川	AP-Y		(参考) 琵琶湖	BSL	水平位置の座標系	平面直角座標系第I系 (長崎県、鹿児島県(一部))	1(X, Y)	平面直角座標系第XⅢ系 (北海道(東部))	13(X, Y)	(参考) 緯度・経度	(B, L)	鉛直座標系	標高 (東京湾平均海面 (ジオイド) からの高さ)	H	(参考) 楕円体高	h	座標参照系の改定に伴い「日本測地系2024」「JGD2024」を追加、文言改定。 鉛直座標系の「標高」の補足説明改定。
	記述項目	参照系情報の内容 (例)	略称																																																																																										
測地系 (水平位置の基準面)	日本測地系2011	JGD2011																																																																																											
	(参考) 日本測地系2000	JGD2000																																																																																											
	(参考) 日本測地系 (Tokyo Datum)	TD																																																																																											
	(参考) World Geodetic System 1984 (GPSの測地系)	WGS84																																																																																											
鉛直基準面	東京湾平均海面	TP																																																																																											
	(参考) 北上川	KP																																																																																											
	(参考) 利根川	YP																																																																																											
	(参考) 荒川・中川・多摩川	AP-ANT																																																																																											
	(参考) 淀川	OP																																																																																											
	(参考) 吉野川	AP-Y																																																																																											
	(参考) 琵琶湖	BSL																																																																																											
	水平位置の座標系	平面直角座標系第I系 (長崎県、鹿児島県(一部))	1(X, Y)																																																																																										
	平面直角座標系第XⅢ系 (北海道(東部))	13(X, Y)																																																																																											
	(参考) 緯度・経度	(B, L)																																																																																											
鉛直座標系	標高 (基準平均海面からの高さ)	H																																																																																											
	(参考) 楕円体高	h																																																																																											
記述項目	参照系情報の内容 (例)	略称																																																																																											
測地系 (水平位置の基準面)	日本測地系2024	JGD2024																																																																																											
	(参考) 日本測地系2011	JGD2011																																																																																											
	(参考) 日本測地系2000	JGD2000																																																																																											
	(参考) 日本測地系 (Tokyo Datum)	TD																																																																																											
	(参考) World Geodetic System 1984 (GPSの測地系)	WGS84																																																																																											
	鉛直基準面	東京湾平均海面	TP																																																																																										
	(参考) 北上川	KP																																																																																											
	(参考) 利根川	YP																																																																																											
	(参考) 荒川・中川・多摩川	AP-ANT																																																																																											
	(参考) 淀川	OP																																																																																											
	(参考) 吉野川	AP-Y																																																																																											
	(参考) 琵琶湖	BSL																																																																																											
水平位置の座標系	平面直角座標系第I系 (長崎県、鹿児島県(一部))	1(X, Y)																																																																																											
	平面直角座標系第XⅢ系 (北海道(東部))	13(X, Y)																																																																																											
	(参考) 緯度・経度	(B, L)																																																																																											
鉛直座標系	標高 (東京湾平均海面 (ジオイド) からの高さ)	H																																																																																											
	(参考) 楕円体高	h																																																																																											
9 脚注	※9 地理空間データ製品仕様書作成マニュアル 5. 参照系 (令和2年11月、国土交通省国土地理院) https://www.gsi.go.jp/common/000259946.pdf	※9 地理空間データ製品仕様書作成マニュアル 第二部 5. 参照系 (令和7年4月、国土交通省国土地理院) https://www.gsi.go.jp/common/000259946.pdf	発行年月等更新																																																																																										
1-7 データ連携に対応したソフトウェアの活用	11 脚注	LandXMLは日本における道路設計、河川堤防設計等に必要情報が不足しているため、LandXMLに準拠した形式で日本独自の内容及びデータ形式を定めたもの。国土交通省直轄事業の線形構造物において、特定のソフトウェアに依存しない形式として、様々なソフトウェア間のデータ連携で活用されている。(参考: LandXML1.2に準じた3次元設計データ交換標準(案) Ver.1.6(略称: J-LandXML) 令和6年4月 一般社団法人OCF、監修: 国土交通省国土技術政策総合研究所)	11	LandXMLは日本における道路設計、河川堤防設計等に必要情報が不足しているため、LandXMLに準拠した形式で日本独自の内容及びデータ形式を定めたもの。国土交通省直轄事業の線形構造物において、特定のソフトウェアに依存しない形式として、様々なソフトウェア間のデータ連携で活用されている。(参考: LandXML1.2に準じた3次元設計データ交換標準(案) Ver.1.7(略称: J-LandXML) 令和7年5月 一般社団法人OCF、監修: 国土交通省国土技術政策総合研究所)	名称、発行年月改定																																																																																								
1-8 情報共有の手法	13	現在、情報共有システム (ASP) やDXデータセンター、民間等によるサービスなど様々なサービスが提供されており、受注者は活用目的に応じて、発注者と協議し最適なシステムを選定する。	13	現在、情報共有システム (ASP) や民間等によるサービスなど様々なサービスが提供されており、受注者は活用目的に応じて、発注者と協議し最適なシステムを選定する。	受注者が利用する領域は今年度で廃止するため「DXデータセンター」に関する記述を削除																																																																																								
	13	国土技術政策総合研究所にデータ共有の実証研究システムとして構築している「DXデータセンター」※14は、複数受注者間で活用できるという特徴がある。活用にあたっては、受注後に発注者から貸与されるパスワードが必要となることから、以下のサイトを参考に必要な機能等を事前確認の上、発注者と調整して活用されたい。																																																																																											
	13 脚注	※14 DX データセンター https://dxportal.nilim.go.jp/exonym/																																																																																											
2-2 BIM/CIM実施計画書の作成	17	これまでの取り組みで効果が確認され、実施が推奨される項目を「附属資料1 推奨項目一覧」に示す。また、「BIM/CIMポータルサイト」※16において過去の取組事例を公表しているのを参考にされたい。	17	これまでの取り組みで効果が確認され、実施が推奨される項目を「附属資料1 推奨項目一覧」に示す。また、「BIM/CIMポータルサイト」※16において過去の取組事例を「BIM/CIM事例集」として公表しているのを参考にされたい。	「BIM/CIM事例集HP」作成に伴い説明追加																																																																																								

項目 (番号は改定前)	BIM/CIM取扱要領 R7.3		BIM/CIM取扱要領 R8.3		理由											
	頁	内容	頁	内容												
2-3-1 3次元モデルと2次元図面の整合	19	現時点(令和7年2月)では、3次元設計に対応する機能がソフトウェアに備わっていると限らないため、まずは、主要構造物について限定して3次元モデルと2次元図面の整合を確認する取り組みを進めていく(表-8)。	19	現時点(令和8年3月)では、3次元設計に対応する機能がソフトウェアに備わっていると限らないため、まずは、主要構造物について限定して3次元モデルと2次元図面の整合を確認する取り組みを進めていく(表-8)。	時点修正											
	19	これまでは、3次元モデルと2次元図面の整合は確認していないが、今後は、詳細度300以上で3次元モデルを作成する場合、主要構造物は3次元モデルと2次元図面の整合を確認していくこととする。数年以内の整合確認の原則化に向け、当面は試行業務を進める。	19	これまでは、3次元モデルと2次元図面の整合は確認していないが、今後は、詳細度300以上で3次元モデルを作成する場合、主要構造物は3次元モデルと2次元図面の整合を確認していくこととする。確認方法については、「附属資料2 設計段階における3次元モデルと2次元図面の整合確認方法(案)」を参照ありたい。	附属資料2の策定に伴い、文章を改定											
	19	なお、3次元モデルから2次元形状を切り出して2次元図面を作成する場合、「CAD製図基準」を満足するデータを作成できるソフトウェアが現状では整備されていないことから、切り出した2次元形状に対して「CAD製図基準」で定める「レイヤの名称」「色」「線の種類・太さ」「寸法の表し方」等の設定を考慮しなくてもよい。			CAD製図基準 R7.12改定内容と整合しないため削除											
2-3-2 属性情報の活用	23	なお、作成する3次元モデルについて、少なくとも3次元形状データが何を表すかを識別する情報をオブジェクトごとに属性情報として設定する(附属資料2 参照)。	23	なお、作成する3次元モデルについて、少なくとも3次元形状データが何を表すかを識別する情報をオブジェクトごとに属性情報として設定する(附属資料3 参照)。	資料番号変更に伴い修正											
	23	国土交通省では次期積算システムの一つの機能として、数量等積算に必要な情報を積算システムに取り込むため、工事工種体系に基づき統一された数量データを作成する「設計数量管理機能」を整備しているところであり、試行版を公表している(令和7年2月現在)。	23	国土交通省では土木工事積算システムの一つの機能として、数量等積算に必要な情報を積算システムに取り込むため、工事工種体系に基づき統一された数量データを作成する「設計数量管理機能」※18を整備・公表している。	「設計数量管理機能」Ver1.0の公開に伴い文言改定											
	23	3次元モデルに設定した数量や規格等の属性情報(附属資料3 参照)と「設計数量管理機能」※18を、工事工種体系ツリーコードを通じて連携する。	23	3次元モデルに設定した数量や規格等の属性情報(附属資料4 参照)と「設計数量管理機能」を、工事工種体系ツリーコードを通じて連携する。	資料番号変更に伴い改定											
	24	【参考】設計数量管理機能へのデータ入力例	24	【参考】設計数量管理機能へのデータ入力例(構造物モデルでの例)	補足説明追加											
	24	手順①②で行う3次元形状データの作成、属性情報設定の仕様については、「附属資料3 積算での活用を目的とした3次元モデルの作成方法」に示す。	24	手順①②で行う3次元形状データの作成、属性情報設定の仕様については、「附属資料4 積算での活用を目的とした3次元モデルの作成方法」に示す。	資料番号変更に伴い改定											
附属資料2	附2-1 附属資料2 オブジェクト分類	附3-1 附属資料3 オブジェクト分類			資料番号変更に伴い改定											
附属資料3	附3-1 附属資料3 積算での活用を目的とした3次元モデルの作成方法	附4-1 附属資料4 積算での活用を目的とした3次元モデルの作成方法			資料番号変更に伴い改定											
2.属性情報(1)オブジェクト分類	附3-1 「附属資料2 オブジェクト分類」に示す統一した用語を設定する。	附4-1 「附属資料3 オブジェクト分類」に示す統一した用語を設定する。			資料番号変更に伴い改定											
2.属性情報(2)体系コード、数量、規格	附3-2 表1 属性情報の設定例 <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>属性名</th> <th>属性値^{注2}(設定方法)</th> <th>属性値^{注2}(設定例)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>オブジェクト分類</td> <td>「附属資料2 オブジェクト分類」のオブジェクト分類を設定する。「オブジェクト分類(階層3)」の設定は必須。</td> <td>コンクリート</td> </tr> </tbody> </table>	属性名	属性値 ^{注2} (設定方法)	属性値 ^{注2} (設定例)	オブジェクト分類	「附属資料2 オブジェクト分類」のオブジェクト分類を設定する。「オブジェクト分類(階層3)」の設定は必須。	コンクリート	附4-2 表1 属性情報の設定例 <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>属性名</th> <th>属性値^{注2}(設定方法)</th> <th>属性値^{注2}(設定例)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>オブジェクト分類</td> <td>「附属資料3 オブジェクト分類」のオブジェクト分類を設定する。「オブジェクト分類(階層3)」の設定は必須。</td> <td>コンクリート</td> </tr> </tbody> </table>	属性名	属性値 ^{注2} (設定方法)	属性値 ^{注2} (設定例)	オブジェクト分類	「附属資料3 オブジェクト分類」のオブジェクト分類を設定する。「オブジェクト分類(階層3)」の設定は必須。	コンクリート		資料番号変更に伴い改定
属性名	属性値 ^{注2} (設定方法)	属性値 ^{注2} (設定例)														
オブジェクト分類	「附属資料2 オブジェクト分類」のオブジェクト分類を設定する。「オブジェクト分類(階層3)」の設定は必須。	コンクリート														
属性名	属性値 ^{注2} (設定方法)	属性値 ^{注2} (設定例)														
オブジェクト分類	「附属資料3 オブジェクト分類」のオブジェクト分類を設定する。「オブジェクト分類(階層3)」の設定は必須。	コンクリート														